

受験 番号						氏 名	
----------	--	--	--	--	--	--------	--

国 語

(100 点)
(50 分)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。
2. この問題冊子は 16 頁ある。試験開始後、頁の落丁・乱丁及び印刷不鮮明、また解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
3. 監督者の指示にしたがって、解答用紙の該当欄に以下の項目をそれぞれ正しく記入し、マークせよ。

(1) 受験番号欄

受験番号を 5 ケタで記入し、さらにその下のマーク欄に該当する 5 ケタをマークせよ。(例) 受験番号 20025 番 →

2	0	0	2	5
---	---	---	---	---

 と記入。

(2) 氏名欄

氏名・フリガナを記入せよ。

4. マークシートについて

- (1) 受験番号が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- (2) 解答は、解答用紙の注意事項をよく読み解答欄に F・H・HB 鉛筆で正確にマークせよ。

例えば

20

 と表示された問題の正答として ④ を選んだ場合は、次の(例)のように解答番号 20 の解答欄の ④ を濃く完全にマークせよ。薄いもの、あるいは不完全なものは解答したことにはならない。

(例)

解答 番号	解 答 欄
20	① ② ③ ● ⑤

- (3) 解答を修正する場合は必ず「消しゴム」であとが残らないように完全に消すこと。鉛筆の色や消しくずが残ったり、 のような消し方などをした場合は、修正したことにならない。
5. 試験終了後、問題冊子および解答用紙を机上に置き、試験監督者の指示に従い退場しなさい。

第1問 次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。（配点50）

（注1）

阪神・淡路大震災の前の私にとっては、ボランティアとはカンボジアなりアフリカのどこかに出かけていく人たちであった。ずいぶん前だが、ある財団の助成審査委員をしていて、千葉県上総地方に伝わる「上総掘り」という井戸の掘り方をフィリピンとタンザニアに伝授するボランティアの報告会に出た。ビデオを見れば、竹のヒゴをぐるぐる巻いたものを使い、竹のダンリョクを原動力にして井戸を掘るのである。最新の技術でなしに、こういう「草の根」の技術を伝えること自体に意義があるということであった。確かに感動的な場面であった。

（注2）

日本中に、僧行基が掘った池、だれそれが伝授したおまんじゅう作りの方法などという言い伝えが残っている。上総掘りも、いづれそういう伝承としてその地に残るかもしれない。

A、これが印象に残ったということは、私にとってボランティアというものが、やはり遠いものであったことを示していると思う。私は本業のみにいそしむ大方の人と同じであった。決してボランティアを理解していたわけではなく、深く考えたことさえなかった。

ところが阪神・淡路大震災である。私が聞いた話では、奈良女子大学では外国からの留学生が早速飛び出していつて、はっと気づいた日本人学生が二、三日後にあとに続いたということである。留学生にはボランティアは当たり前のことであった。

私は当時、災害の中心にある大学医学部精神科の教授だった。気がついてみると、私はボランティアたちの渦の中にいた。精神科医が休暇をとってやってきた。ありとあらゆる層から来た人たちが走り回っていた。私自身も、だれからの指図も受けずに、自分でそのときどきに最善と思うことをしていた。人々の観察と自己観察とから、私はボランティアというものが何かを考えてみる機会を得た。

私は私なりに理詰めなところがあるから、ボランティアの

I

根拠というものをたどってみた。私は孟子の「惻隠の

情」に行き着いた。「忍びざるのこころ」とも言われるこの情は、孟子の人間性善説の基礎になっている。井戸に落ちようとし

ている子供を見たときには、だれもがはつとして駆け寄って助けようとする。この、反省意識や 口 判断以前の心の動きに、孟子は人間の本性は善である証拠の一つを見た。

私にはこういう覚えがある。例えば、乗り物の中で、「この中に医師がいなか」という放送がある。そういうときに感じる何かである。ではずっと立てるかという、そうではない。専門が違う、だれかが立ってくれるだろう、いまから急ぎの用がある、などなど、こういう言い訳はつねにわいてくる。結局、立たないままにいる口実は必ずあるので、その口実を無視するかしないかが決め手になる。もう一つは、恥をかかないかどうかである。いざ立って役に立たなかったり、間違ったことをしたら恥ずかしいということである。小学校のときに手を挙げて当てられたとたんに答えを忘れてしまった恥ずかしさは、シヨウガイ⁽⁴⁾抜けないものだ。

B、私が思い切って立つと、わらわらと立つ人が出てくる。仲間がいる心強さがあるのだろう。やはり、最初に立つのは、学会で最初に質問するのと同じ、二番手とは違う、大変なエネルギーがいる。

「座視するのに忍びない心」というものは、確かにだれにでもあるのだろうけれども、それが発動するまでには葛藤があるということだ。いじめを見過ごすかどうかなになると、その葛藤は大変だ。震災の場合には、返り討ちに遭うということはないし、一人だけということはないけれども、やはり、布団をかぶって寝てしまうか、立って走り回るかを分ける最初の一瞬というものがある。どちらになるかは最初紙一重であると思う。いったんどちらかに踏み切れば、どんどんそちらのほうに行く。どうも、そういうふう人間の心はできているらしい。(中略)

周知のように、大震災の中では一種の連帯感、共同体感情というものが存在した。普段の人々の境界が溶け落ちた(メルトダウ⁽⁵⁾ンした)のである。それはボランティアが、甲 ように動ける世界であった。

これをボランティアに関して「熱い」(ホットな)世界と言おう。この世界にもキケン性は潜んでいる。私は、震災直後の熱い世界の中で、フランス革命にせよ、ロシア革命にせよ、革命の初期のコウヨウ⁽⁶⁾はこういうものだったのではないかと思った。この共同体感情を永遠ならしめようという誘惑はまわりまわって「力づくの永遠化」C 恐怖政治につながりかねない、と

いう思いも頭をかすめた。しかし幸いに、被災地のだれもがこれが ハ であることを直観していた。そして天災は革命より人も ニ にしにくい。

そういう中ではボランティアを組織し、効率をよくしようという行政的発想は、お祭りの雰囲気の中で祭りの群集を組織化することが場違いであるように、いかにも場違いであった。行政は「熱く」なつてはいけない。 D 、いかに親切的な行政といえども、大荷物にナンジュー^(オ)ウしているおばあさんを見かけたら代わつてとっさに持つてあげることはできない。そういう立場の行政人が葛藤^{さいな}に苛まれてもふしぎではない。行政には公平性というものがつねに要求されるからである。ところが、ボランティアにとっては、とっさにできる簡単な行為である。この例一つで、行政とボランティアとの間の補い合いの関係がわかるだろう。ボランティアはその場で良いとすることができ。しかし、「やめる」と言えば横からこれを止めることはできない。祭りの群集と同じ無責任性が潜んでいる。

しかし、熱い世界だけがボランティアの世界ではない。「クール」な（冷めた）世界におけるボランティアは、大震災のときとは別個の場であり、別個の原動力を必要とする。この課題のほうがはるかに難しい。一般に「クール」な世界におけるボランティアがどうあるべきかを、私はまだ言うことができない。行政はボランティアを完全に掌握しようとする。どのような行政も職務忠実の原理によってそうなるはずである。しかし、ボランティアセンターといったものによって完全に組織され、行政の毛細管となったボランティアは精神が形骸化する。アメリカのボランティアセンターはモデルにならない。ロサンゼルス^{ロサンゼルス}のボランティアセンターの「ボランティア」の半数は、裁判所によって「ボランティア」従事の判決を受けた軽犯罪の諸君だった。それはいわば「非自発的（インボランタリー）ボランティア」である。この課題は実践的にしか解けない。次の災害、その次の災害と試行錯誤を重ねてゆくことになるだろう。ただ、行政からみてうまくいったとみえる場合、現場では地団駄を踏み不毛ないさかいさえ起こっていることが間々あるだろう。システムが ホ な円滑さで動くのはしばしば末端の苦悩を押しつぶしながらである。双方に同じ程度の不満が残るのが実はいちばんうまく行っている場合であると私は思う。

（中井久夫「ボランティアとは何か」一部改変）

(注)

- 1 阪神・淡路大震災——一九九五年一月十七日の早朝に発生した、明石海峡を震源とする地震災害。
- 2 行基——飛鳥〜奈良時代にかけて活動した日本の仏教僧（六六八〜七四九年）。
- 3 孟子——中国戦国時代の儒学思想家（前三七二？〜前二八九？）。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は

1

～

5

。

(ア)

ダンリヨク

1

- ① 地球の温^{ダン}化の進行
② 妻が夫を^{ダン}那と呼ぶ
③ 首脳が凶^{ダン}に倒れる
④ 講師が演^{ダン}上に立つ
⑤ 二枚目の^{ダン}優の写真

(ウ)

キケン

3

- ① ケン調な夏の営業成績
② ケン微鏡で観察します
③ ケン業農家の農作物だ
④ ケン悪な雰囲気^{ケン}の二人
⑤ ケン査のため入院する

(オ)

ナンジユウ

5

- ① 交通^{ナンジユウ}滞の緩和策
② 麻酔^{ナンジユウ}を発射する
③ 仮設^{ナンジユウ}宅の建設地
④ 父は^{ナンジユウ}道の選手だ
⑤ 車を^{ナンジユウ}列駐車した

(イ)

シヨウガイ

2

- ① ^{ガイ}路樹の下の散歩
② 断^{ガイ}絶壁の景勝地
③ 当^{ガイ}事例を示した
④ 境^{ガイ}が貧しかった
⑤ ^{ガイ}嘆を禁じ得ない

(エ)

コウヨウ

4

- ① 競技場の国旗掲^{コウヨウ}ヨウ
② 流行した日本歌^{コウヨウ}ヨウ
③ 和解後の証^{あかし}の抱^{コウヨウ}ヨウ
④ 草原で群れる牧^{コウヨウ}ヨウ
⑤ 伝統的な日本舞^{コウヨウ}ヨウ

問2

空欄

A

D

解答番号は

6

に入れるのに最も適切な語の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- | | | | | |
|------|------|------|------|------|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| A | A | A | A | A |
| しかし | ところで | すなわち | ところで | しかし |
| B | B | B | B | B |
| 例えば | すなわち | 例えば | すなわち | ところで |
| C | C | C | C | C |
| すなわち | しかし | ところで | 例えば | すなわち |
| D | D | D | D | D |
| ところで | 例えば | しかし | しかし | 例えば |

問3

空欄

イ

ホ

解答番号は

7

に入れるのに最も適切な語の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| ⑤ | ④ | ③ | ② | ① |
| イ | イ | イ | イ | イ |
| 理性的 | 倫理的 | 模範的 | 倫理的 | 理性的 |
| ロ | ロ | ロ | ロ | ロ |
| 一時的 | 理性的 | 倫理的 | 他罰的 | 倫理的 |
| ハ | ハ | ハ | ハ | ハ |
| 他罰的 | 一時的 | 理性的 | 模範的 | 一時的 |
| ニ | ニ | ニ | ニ | ニ |
| 模範的 | 他罰的 | 他罰的 | 理性的 | 模範的 |
| ホ | ホ | ホ | ホ | ホ |
| 倫理的 | 模範的 | 一時的 | 一時的 | 他罰的 |

問4

空欄

甲

に入れるのに最も適切な表現を、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

8

。

- ① 馬が重荷を背負う
- ② 魚が石の中に漂う
- ③ 花卉が空中に舞う
- ④ 魚が水の中に泳ぐ
- ⑤ 牛が車を牽引する

問5 傍線部乙の内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は

9

。

- ① 行政はボランティアを効率的に実行しようとするが、現場のボランティア従事者にとっては、行政の管轄下でありながらも自らの効率性を担保された方が望ましく、その結果、行政がボランティアの効率を高めることができるから。
- ② 行政はボランティアを全面的に掌握しようとするが、現場のボランティア従事者にとっては、行政の管轄下でありながらも自らの非自発性を受忍した方が望ましく、その結果、行政がボランティアに必要以上に介入してしまうから。
- ③ 行政はボランティアの末端まで組織しようとするが、現場のボランティア従事者にとっては、行政の管轄下でありながらも自らの積極性を許容された方が望ましく、その結果、行政がボランティアの不足分を補うことができるから。
- ④ 行政はボランティアに公平性を要求しようとするが、現場のボランティア従事者にとっては、行政の管轄下でありながらも自らの主体性を尊重された方が望ましく、その結果、行政はボランティアをより公平公正に維持できるから。
- ⑤ 行政はボランティアを隅々まで把握しようとするが、現場のボランティア従事者にとっては、行政の管轄下でありながらも自らの能動性を尊重された方が望ましく、その結果、行政はボランティアを完全には管理できなくなるから。

問6 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

10。

- ① 「上総掘り」という井戸の掘り方を他国に伝授するビデオで、井戸に落ちようとしている子供に駆け寄って助けようとする人々の姿を見た筆者は、ボランティアの根拠を孟子の「惻隠の情」においてとらえた。
- ② 奈良女子大学も筆者が所属する大学医学部も、阪神・淡路大震災において、留学生が真っ先にボランティアに駆けつけ、気がついてみると、日本人学生が二、三日後になって後に続いて走り回ることになった。
- ③ 「座視するのに忍びない心」という「惻隠の情」は、だれにでもあると考えられるが、その情が発動するまでには葛藤があり、人間の心はいったん踏み切ることさえできれば、選択した方向に進むと思われる。
- ④ 震災直後の熱い世界の中で、ボランティアを組織化・効率化しようという行政的な発想は場違いだが、その理由は行政には公平性が要請されるためであり、ボランティアには無責任性が潜んでいるからである。
- ⑤ ボランティアセンターによるボランティアの組織化は「非自発的」という点でボランティア精神の形骸化であり、認識の相違から、行政と現場との間に不毛ないさかいさえ起こることが間々あると考えられる。

第2問

次の文章を読んで、後の問い（問1～6）に答えよ。（配点50）

『全体主義の起源』の七年後に、アーレントの主要著作と目される『人間の条件』（一九五八年）が刊行される。アーレントを反全体主義の闘士だと思っている人が、このタイトルを見れば、全体主義の悪に毒されていない人間本性の豊かさ、人間愛のすばらしさのようなものを高らかに謳い上げる、人間味あふれる著作を期待するかもしれない——アーレント・ファンに限らず、哲学・思想の本にそういうものを期待する人は少なくない。

しかし、そのつもりで『人間の条件』を読み始めると、すぐに期待外れであることが分かる。まず、この本でアーレントが「人間」と呼んでいるのは、生物としてのヒト一般のことではない。西欧世界において伝統的に「人間」と呼ばれてきた存在、あるいは「人間」という概念のことを指している。無論、西欧世界における「人間」が、ヒトとして生を受ける「私たち」全てとイコールであれば、別に問題はないのだが、アーレントは古代ギリシアやローマにまで遡って、「人間」の起源について考察している。古代ギリシア・ローマの「人間」というのは、生物としてのヒトではなく、主として共同体を構成する一人前の仲間として認められている者たちを指す概念だった。高校の世界史の教科書にも書かれているように、アテネなどの古代ギリシアの「ポリス」政治的共同体 polis⁽⁷⁾において、一人前の市民として認められ、民主政治に参加していたのは、成人の男子で、家長の地位にある者だけだった。ドレイや他の家族のメンバーは、「人間らしい人間」とは見做されていなかった。『人間の条件』とは、古代の都市国家、政治的共同体で、「市民」を基準に形成された「人間らしさ」という観念を思想史的に分析することを試みた著作である。（中略）

『人間の条件』の冒頭でアーレントは、古代の「人間」観を基準にして、「人間」であるための三つの条件を示している。①労働 (labor) ②仕事 (work) ③活動 (action) の三つである。この三つをアーレントは普通の英語とは少し違う意味で使っている。「労働」と「仕事」はほとんど同じことのようにも思える。実際、ドイツ語では〈labor〉も〈work〉も通常、〈Arbeit〉と同じ単語で表される。アーレントは、「労働」の方を、人間の肉体の生物学的過程として捉えている。人間の肉体が、生命と

して生きていくのに必要な物を作り出す過程である。もっと簡単に言う、動物が餌を取って、貯えたり、巣を作ったりするのと基本的に同じ営みである。それに対して「仕事」の方は、自然の過程には属さない人工物を生み出し、自然環境とは異なる

「イ」世界を構築する営みである。つまり、生物体としての人間の生命を維持していく営みとは直接関係ないけれど、人間たちの生きる「世界」の中で価値を持つような、家具や機械、芸術作品などの作品 (works) を作り出す営みである。

マルクス主義では、この「仕事」を含んだ意味での「労働」を、人間の「類的本質」と見做す。自然に対して

「ロ」に働きかけ、

みんなで共同で利用できる有用な物を作り出すことが、「労働」である。そして、この意味での「労働」が社会的な価値のゲンセンである (『労働価値説』) というのが、マルクス主義とアダム・スミスなどの古典派経済学の共通の前提である。

それに対してアーレントは、最も重要なのはむしろ「活動」であるという立場を取っている。〈action〉という英語、あるいは

「アクション」というカタカナの日本語には、映画やテレビの中のハイユウのアクションのように、身体を激しく動かすというニュアンスがあるので、何となく「労働」の延長にあるような響きがある。しかしアーレントが念頭に置いているのは、古代ギリシアやローマの都市国家における「活動」である。これは、(物理的な暴力によるのではなく) 言語や身振りによって他人 (の精神) に対して働きかけ、説得しようとする営みである。これは、人間にしか見られない営みである。

「労働」と「仕事」が基本的に個人の営みであり、必ずしも他の人と「ハ」に関わりを持たないでも遂行できるのに対し

て、「活動」は、自分と同じように思考しているであろう他の「人格」を前提にし、それに働きかける営みだ。言い換えると、「世界」には自分一人がいるわけではなく、複数の人格が存在していることを理解したうえで、(直接的に知覚することのできない) お互いの人格に影響を与え合おうとする営みである。

アーレントは、こうした「活動」の前提に「複数性 plurality」があると考える。「複数」という言い方をすると、動物の群れのように複数の個体が固まって動いているようなイメージを思い浮べてしまいそうだが、アーレントは「複数性」を、群れとはむしろ正反対のものとして理解している。どこが違うかというと、群れになっている動物は当然のことながらお互いに意志疎通を図ることなく、まるで一匹の個体のように一体になって振る舞うが、「複数性」は、人々の間に「間 in-between」の空間が

あることを前提に成立する。日本語に、『人間』という言葉は、人と人の『間』ということだが、これは人間が一人ではなく……』という慣用的な言い回しがあるが、たまたまこれと同じようなニュアンスを含んだ「間」である——当たり前のことだが、アーレントは別に「人間」という漢字語を念頭において「活動」論を展開しているわけではない。

アーレントの「間」は、人と人を心的に結び付ける絆^{きずな}であると同時に、距離を設定するという意味も含んでいる。距離を設定するというのは、**二**な暴力とか動物的なシヨウドウ^(註3)のようなものによって「一体」になって動くのではなく、言語的な

コミュニケーションを介して**ホ**に相互作用するということである。この言語によって生み出される「間」が、人々の間での考え方、価値観の多様性を生み出すものになるのである。言語による「活動」は、人々の物に対する見方を多様にするのである。当然、「活動」に参加している各人の内でも、多様な他者との意見交換を通じて、複眼的なパースペクティヴが形成される。その意味では〈plurality〉は、「多元性」と訳すこともできる。

アーレントは『全体主義の起源』でも、大衆社会の中でアトム化した状態^(註3)で生きる人たちのコドクと、全体主義体制による「複数性」の最終的な破壊という問題を取り上げている。アトム化して、周りから見捨てられているという感情を抱いている人たちを一つの世界観によって再度「一つ」にまとめようとする全体主義は、異なった意見を持つ人々が複数のパースペクティヴから討論し合って、物の見方を多元化することのできる余地^(註3)（空）間を潰してしまうのである。

（仲正昌樹『今こそアーレントを読み直す』一部改変）

（注）

- 1 アーレント——ドイツ出身、アメリカの政治哲学者。 Hannah Arendt（一九〇六―一九七五）。
- 2 アダム・スミス——イギリスの経済学者・倫理学者。 Adam Smith（一七二三―一七九〇）。
- 3 アトム化——巨大化した機構の中で人間が菌車のように主体性を喪失した状態。

問1 傍線部(ア)～(オ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

解答番号は 11 ～ 15。

(ア)

ドレイ

11

- ① 無為に馬レイを重ねる
- ② 書道展のレイ書の鑑賞
- ③ 彼女は幽レイを信じる
- ④ 選手を激レイする監督
- ⑤ 授業の予レイが鳴った

(ウ)

ハイユウ

13

- ① ハイ北を糧に再起する
- ② ハイ気量の大きい車両
- ③ ハイ止された身分制度
- ④ ハイ句は季語が必要だ
- ⑤ ハイのレントゲン写真

(オ)

コドク

15

- ① 緊張でコ動が早まった
- ② 天然のコ沼の水質調査
- ③ 語を括コ内に表記する
- ④ 米を倉コに収納します
- ⑤ 試合はコ軍奮闘だった

(イ)

ゲンセン

12

- ① 夫婦で温センに行く
- ② 連衆が歌センを巻く
- ③ 前近代のセン星術師
- ④ 王朝の変センを学ぶ
- ⑤ あなたはセン細です

(エ)

ショウドウ

14

- ① 知人へのショウ介状
- ② 非常用のショウ明灯
- ③ 展覧会のショウ待客
- ④ 二国間緩ショウ地帯
- ⑤ 損害の賠ショウ請求

問2 次のV～Zは本文でアーレントが述べる「労働」「仕事」「活動」のいずれの具体例に相当するか。この説明として正しい組み合わせを、後掲の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

16。

V 貧困支援のため、友人と相談して兄は奉仕活動をした。
W わたしは自分の部屋を清掃して、快適な空間を作った。
X わたしと妹は不在の母親に代わって、昼食を料理した。
Y 兄は会社で新規事業の企画のために、会議で議論した。
Z D I Yが趣味の父は、自宅に備え付けの書棚を作った。

⑤	④	③	②	①
V	V	V	V	V
仕事	活動	仕事	労働	活動
W	W	W	W	W
活動	労働	活動	仕事	労働
X	X	X	X	X
活動	労働	仕事	労働	活動
Y	Y	Y	Y	Y
仕事	活動	仕事	活動	仕事
Z	Z	Z	Z	Z
労働	仕事	労働	仕事	労働

問3

空欄

イ

ホ

に入れるのに最も適切な語の組み合わせを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

解答番号は

17

。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | イ | 直接的 | ロ | 人工的 | ハ | 積極的 | ニ | 物理的 | ホ | 人格的 |
| ② | イ | 物理的 | ロ | 積極的 | ハ | 人格的 | ニ | 直接的 | ホ | 人工的 |
| ③ | イ | 人工的 | ロ | 積極的 | ハ | 直接的 | ニ | 物理的 | ホ | 人格的 |
| ④ | イ | 人工的 | ロ | 人格的 | ハ | 積極的 | ニ | 直接的 | ホ | 物理的 |
| ⑤ | イ | 積極的 | ロ | 人工的 | ハ | 人格的 | ニ | 物理的 | ホ | 直接的 |

問4

傍線部Aの説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

18

。

- ① 都市国家ボリスの民主政治における、言語や身振りなどによって他人を説得する営為。
- ② 都市国家ボリスの民主政治における、自然に働きかけて共有の利用物を創造する行為。
- ③ 都市国家ボリスの民主政治における、自然の過程には属さない人工物を生み出す作業。
- ④ 都市国家ボリスの民主政治における、体を激しく動かしながら他人に働きかける行動。
- ⑤ 都市国家ボリスの民主政治における、複数の個体が単一の個体として一体化する労働。

問5 傍線部Bの内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 解答番号は

19

- ① 周りから見捨てられているという感情を抱く人に帰属意識を与える思想である。
- ② 異なった意見を持つ人々が複数の視点から討論する場所を提供する思想である。
- ③ 人間が物に対して持っているはずの多様な見方を一元化してしまう思想である。
- ④ 大衆社会において社会機構の歯車となった人の主体性を回復させる思想である。
- ⑤ 人と人を心的に結合すると同時に人と人の間に相互作用を設定する思想である。

問6 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

20。

- ① アーレントの名著『人間の条件』は、全体主義の悪に毒されていない人間本性について、古代ギリシア・ローマにおける「人間」の起源に基づいて考察した書物である。
- ② 古代ギリシアの政治的共同体において、家長の地位以外の者が「人間らしい」とは見做されていなかった点を、アーレントは名著『人間の条件』において批判している。
- ③ アーレントによれば、「人間」である条件は、「労働」と「仕事」を行うことなく、「活動」を通して、人が他人に働きかけ、人が他人を説得する営みにのみ存している。
- ④ マルクス主義とアダム・スミスの共通前提とは、人が自然環境から共同利用の有用物を作り出していく営みを、「仕事」とは区別して、「労働」として定義したことである。
- ⑤ アーレントは「活動」の前提として、人々の間におけるコミュニケーションの相互作用を通じて、人が多元的な視点を形成していく「複数性」という点を重視している。